

【ユースのためのスキルビルディング】

■コーディネーター： 川田 龍平（松本大学）
 沢田 貴志（シェア＝国際保健協力市民の会）

■演 者・コメンテーター（一部予定）50音順

1. 生島 嗣（特定非営利活動法人 ふれいす東京）
2. 坂本 憲治（市民社会創造ファンド プログラムオフィサー）
3. 高井 明子（国連人口基金ベトナム事務局）
4. 野坂 祐子（大阪教育大学）
5. 東 優子（大阪府立大学人間科学部）
6. 兵藤 智佳（早稲田大学ボランティアセンター）

若者のためにエイズや性教育などの分野での啓発活動を行う若者たちが、効果的な活動を持続的に実施するためのスキルを獲得することを目的とし、参加型のスキルビルディングプログラムを計画した。事前に数回のミーティングを行うことにより、啓発活動に取り組む若者達が関心を持つスキルと、実行委員会が効果的と考えるプログラムとのすり合わせを行った。これらをもとに専門家による講義とプログラム評価の専門家をまじえた参加型の分科会を行う。また、これに先立ちピアエデュケーションとアドボカシーという2つの分野での事前学習や簡単な調査を実施した。

プログラム

第1部：若者の理論強化のための講義と事例紹介（13:20-15:20）

若者自身の事例の提示などの参加的な手法を織り交ぜながら、「ピアエデュケーションの概念とその有効性」「ピアによる参加型介入の手法」などについて研究者の立場からの講義を受け、活動の理論的な基盤を考える機会とする。

第2部：若者の実践能力を高める参加型分科会（15:40-17:40）

若者の取り組みの発表を受けてフロアを交えた議論を展開することで若者達の実践能力を高めるための企画である。以下の2つの分科会を予定している。

分科会1 ピアエデュケーション

若者達が行ったピアエデュケーションの実践例を複数報告し、NPO活動の専門家達からの評価を受け参加者と共に論議を行う。また、事前に若者達が行ったピアエデュケーション活動に関するアンケート調査の結果を発表することで若者達が感じている困難や克服するための努力について共有も計る。

分科会2 アドボカシー

自分達の主張を明確な根拠と戦略を持って提示する必要があるアドボカシー活動は、実践する上で多様なスキルの獲得が必要となる。そこで「大学にコンドームをおいてもらう」という目的でアドボ

カシーをするためにはどうすればよいのか、助言者を交えて論議する。事前に行った学習や調査の報告を交えて参加型での実施を追及する。

*このセッションへの参加は事前の申し込みが必要です。

協力：ジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会

企画：第20回日本エイズ学会学術集会ユースプログラム実行委員会